

『感動のチャレンジウォーク』

天気も気温も絶好のコンディション！先週の金曜日に『チャレンジウォーク』を実施しました。25名の子供たちと9人の教職員、そして、5名の保護者・地域の方で往復約10kmの行程を完歩することができました。

前日には、5名の有志(保護者と御家族)の方々で、豚汁の仕込みをしていただき、当日も3名の有志(保護者と御家族)の方で豚汁を仕上げ、車でその豚汁を(こぼさぬように、大きな鍋を抱きかかえながら)目的地まで運んでいただきました。また、集落センターでは、9名の有志(地域の皆様)の方々、引率の教師と、同行する保護者・地域の方々のために、学校田で育て、収穫したお米で、たくさんのおにぎりを作ってくださいました。

チャレンジウォークの道中は、眼下に映る「青き真珠のすむ海(大村湾)」や「みかん実る丘」、「弓形に続く線路」・・・大草ならではの風景に感動したり、疲れを癒されたりしながら、目的地を目指しました。「がんばれ！」「がんばろう！」と子供たち同士励ます姿もたくさんありました。一つ目の目的地「中里虚空蔵山」では、眺望も最高でしたが、大草小学校の方角に向かって、参加できなかったお友達の名前を大声で呼ぶ子供たち・・・純粋な言動に心が洗われる光景でしたし、その場にいる皆で素敵な空間を共有できたことも、すごく貴重な時間でした。そこから、アップダウンのある約1kmの道のりを経て、往路二つ目の目的地「西川内虚空蔵山公園」へ。澄み渡る空、展望台からの眺めも格別でしたが、子供たちのキラキラ耀く笑顔も見られ、とても清々しい気分でした。そして、お待ちかねの昼食タイム。子供たちは、学校田で育てたお米を炊いて、自分で握ってきたおにぎり、具材も愛情もたっぷりの豚汁を食べました。至る所で「おいしい！」という言葉と笑顔が交わされていました。我々大人も地域の方々から作っていただいた「ツヤツヤおにぎり」をいただきました。おにぎりも豚汁もとてもおいしかったです。参加者皆で「同じ釜の飯を食す」・・・これもまた、とても貴重な体験でした。お昼を済ませて、復路は全て舗装された道を歩いたのですが、疲れている子も居たため、随時休憩を取りながら、何とか全員で学校に辿り着くことができました。到着した子供たちとハイタッチ・・・「どの子も、よく頑張ったなあ。すごいなあ。」と感心させられました。

事前の準備から、当日の活動の最中、そして、学校に到着してからも「ジーン」と心が温かくなったり、週末も今回のチャレンジウォークに係るいろいろな出来事を思い出しながら、「とても価値ある行事だなあ。」と振り返ったりしました。改めて、子供たちの活動・学校の取組を支えていただきました応援団の皆様方に、心から御礼申し上げます。本当に、本当にありがとうございました。



「豚汁の仕込み」の様子です。



勾配のある「登山道」



お楽しみの「豚汁」



素晴らしい景色「大草最高！」

【子供たちの健康と安全管理のポイントとしてⅠ】

「おはようございます！」立哨指導をしている私に、いつも挨拶してくれる子供たち・・・表情やテンションはそれぞれですが、ニッコリ笑顔と大きな声の挨拶は、こちらまで元気になります。最近、学校のお隣にあるガソリンスタンドの「春宮さん」にも、「おはようございます！」と挨拶をしていて、春宮さんも笑顔で手を振ってくださいます。

私が行っている立哨指導の目的は、子供たちに対する交通安全の指導と管理、学校の前を通行するドライバーや地域の方々への交通安全啓発が主ですが、子供たちの「出欠確認」「健康観察」も兼ねています。いつものメンバーの中に欠員があると、「あれ？〇〇さんはどうしたのかな？」と尋ねます。すると、「〇〇さんは、風邪でお休みです。」などと、欠席等の理由を教えてくださいます。また、いつもと表情や声色が違うと「〇〇さん具合悪くない？大丈夫？」と体調について確認をします。学校に戻ってからは、御家庭からの連絡と照らし合わせたり、担任や他の職員とも情報共有をしたりしています。8時の始業後、それぞれの学年・学級で担任による「健康観察」が行われます。この様に学校(教職員)と子供たちは、毎朝同じルーティーンを繰り返している状況です。「子供たちの些細な変化やサインを見逃さない」・・・学校現場ではよく耳にしますが、そう簡単ではないことも事実です。そこで、担任時代から「健康観察」の際に気を付けていたことは、「定点観察」の重要性です。基本的に同じ時間・同じ場所(定点)で観察を重ねることで、子供たちのちょっとした変化に気付けるチャンスや確率が高まるということです。「変化」・・・「いつもと違う」の「いつも」の基準を大切にしなければ、「おや？」「あれ？」という気付きにはつながりにくいと捉えます。そして、もう一つ「情報共有」も大切にしています。気になったことは、意図的に声に出すようにしています。その子に直接尋ねたり、周りの先生とも共有したり、養護の先生に確認したりして、子供たちの健康・安全面に関する判断材料にします。子供たちの健康と安全管理に係る「定点観察」と「情報共有」の重要性について、保護者や地域の方々とも共通の理解と実践ができれば、その効果は一層高まると考えております。